

## 子宮頸がんワクチン接種の定期予防接種への組入れ又は 全額国庫財源によるがん対策事業による実施について

子宮頸がんの約7割はヒト・パピローマウイルス（HPV）による感染が原因であり、子宮頸がん予防ワクチンの接種によって、子宮頸がんの約7割は予防が期待できると言われていることから、11歳～14歳の女子に対するワクチンの接種を進めるため、全額国庫財源による定期予防接種又は全額国庫財源によるがん対策事業としての実施を要望します。